

各案件について、提案した委員から抽出理由のプレゼンテーションがあり、その後、全委員による討議を行いました。

コミュニティバス運行事業は町民の声に応じていけるか

・プレゼンテーション要旨（原委員）

コミバスに関しての住民の関心は極めて高い。議会として、さらに住民ニーズに応えるため、将来性、有効性や費用対効果などさまざまな角度から話し合う必要があると判断した。



主な討議内容

元狭山地区は利用率が高いが、武蔵野地区はほとんど利用されていない。

元狭山地区では通勤通学の足として喜ばれているが、バスが広い道しか通らないことには不満が集中している。

1億円超の予算が使われていることを考えると、実証実験の結果を待つ前に地域の代表者として議員がしっかり議論していくべきだと思う。

実証実験中であり、コロナ禍で住民ニーズの把握も難しい状況である。

武蔵村山市ではコミバスが走らない地域にデマンドタクシーを導入している。利用者は2,300人以上おり、約8割が高齢者で市民からも好評を得ている。また、委託料は800万円以下で4年度はコミバスを一部廃止してデマンドの範囲を増やす計画のようだ。

全国的な成功事例として紹介されているのは、コミバスからデマンドに切り替えた地域だ。デマンドについても調査すべきである。

◆評価結果

(人)

評価項目	コミバス	学びのテーマパーク	みずほ学	
必要性 住民ニーズ	・必要性が高い	7	2	8
	・どちらかと言えば必要性がある	4	9	4
	・必要性が低い	1	1	
	・必要性が認められない			
妥当性 町で行わなければならないか	・町が主体的に行うことが妥当	7	2	2
	・どちらかといえば町が行うべき	4	7	8
	・側面的な支援に留めるべき		3	2
	・必要性がない	1		
長期総合計画、その他計画との整合性 計画的か	・計画に合致している	2	1	1
	・概ね合致している	8	8	10
	・計画に一部合致している	2	2	1
	・合致しているとは言い難い		1	
優先性 優先的に実施する必要があるか	・優先性が高い	5	1	4
	・比較的優先性がある	6	9	8
	・優先性が低い		2	
	・優先性が認められない	1		
有効性 最も有効な方法か	・有効と認められる	2	1	4
	・さらなる工夫が必要	8	9	8
	・有効性が低い	1	2	
	・有効性が認められない	1		

学びのテーマパークは学力向上策として効果が期待できるか

・プレゼンテーション要旨（森委員）

地域コーディネーターが、児童・生徒の主体的な学習を叶える人材や学校が求める人材を探し実施するのが本来の在り方だが、町では教育委員会や学校主導で、地域コーディネーターに依頼している実態も見られる。

主な討議内容

近隣市や日の出町では、すでに学校地域協働本部と地域コーディネーターが設置されている。

学校の取り組み状況の違いから見て、コーディネーター、支援スタッフ、ボランティアの役割や活用などが発展途上の段階である。

事業開始から2年経過したが、ある小学校では自主的に学ぶ児童が出てきている。もう少し時間が必要では。

社会教育課が所管の放課後子ども教室では、学校と地域をコーディネーターがマッチングしている。組織体制を見直せば時間をかけずに軌道修正できると思う。

この事業の目的には「自ら問題を解決できる力と学力向上を目指す」とある。この実現には相当高いスキルを持った人材が必要だと思う。教育経験のない方に求めるのは酷である。

強制的に学校に残して主体的な学習態度を身に付けさせるというのは無理がある。

「ふるさと学習みずほ学」で郷土愛や社会に貢献できる人材育成が図れるか

・プレゼンテーション要旨（森委員）

この事業は有意義であると認識しているが、町の児童・生徒の地域行事への参加率は全国平均を下回っている。みずほ学の趣旨や目的など、児童・生徒、教員や保護者などへ広く理解を浸透させていく必要がある。



校外学習で来庁した小学生

主な討議内容

授業の一環として地域の行事に児童・生徒を参加させるなどは考えられないか。

人材確保が重要になる。新設された協働推進部との連携に期待したい。

郷土愛は、知識だけではなく、自身が地域で必要とされ、自己有用感が育まれる中で醸成されていくものだと考える。

子どもたちの活躍の場を用意することが求められると思う。まちなか会議参加者からも意見として出されていた。

◆最終判断

これら3事業は、所管する委員会で引き続き調査していく。